

「安全登山講座」を開催
大宣伝で一般参加が15名
山口県連理事長 糸山隆志

登山山口県連(会員数80名)は9月10日(日)午前10時、山口市南総合センターで安全登山講座「山での安全登山講座」を開催した。講師は山口県連の糸山隆志理事長。参加者は15名。山口県連の安全登山講座は、山口県連の安全登山講座「山での安全登山講座」を開催した。講師は山口県連の糸山隆志理事長。参加者は15名。山口県連の安全登山講座は、山口県連の安全登山講座「山での安全登山講座」を開催した。講師は山口県連の糸山隆志理事長。参加者は15名。



実技講習も人気だった

登山山口や山頂での配布活動、友好団体へのチラシ送付などを行いました。

講師は全国理事の田上千俊さんです。田上さんはパワポイントにより登山内で発生した具体的な事例を紹介しながら、自身の経験も踏まえて、分かりやすく、ユーモアも交えてかたづけられました。

今回の講座後、数人から問い合わせがありました。参加者の感想から、山での事故は自分とは無関係と、今まで脳天気な山登りしていましたが、だれにも事故は起こりうることをわかりました。



「今の福島 ぜひ見に来て」
交流会に全国から50名
福島県連理事長 佐藤和典

福島県では、東日本大震災と原発事故から6年が経過しました。しかし、現在も多くの住民が避難生活を送っています。こうしたなかで、登山福島県連は

「全国の仲間が福島に来ていただき、その現状を見てもらいたい。そして、いまだに残る風評被害を少しでも払拭したい」と、9月16日夜に喜多方市の「農村婦人の家」で、「福島交流登山集会」を開催しました。

参加したのは、全国連盟女性委員会を始め、京都・東京・宮城の各団体と、県連盟5団体(大阪からの参加は台風の影響で直前キャンセル)の計50名ほどでした。土曜日の夜の交流会では、福島県連・佐藤和典理事長の歓迎あいさつがあり、相馬山歩会・会長の村松孝一さんによる講演で、東電福島原発事故後の県内の山の放射線量や事故後の状況、避難の実態と風評被害

「全国の仲間が福島に来ていただき、その現状を見てもらいたい。そして、いまだに残る風評被害を少しでも払拭したい」と、9月16日夜に喜多方市の「農村婦人の家」で、「福島交流登山集会」を開催しました。

広島県でも空白地域に挑戦
登山講座に元気な女性が大活躍
広島県連理事長 坂井エイコ

広島県連は10年近く「3000の峰をこえよう」というスローガンをたて、会員拡大にとりくんできました。しかし、一進一退の状況が続く、あと一歩で3000の峰をこえようとしたところまで進んだ年もありましたが、なかなか3000人の会員という目標にはなりません。

組織部長の奮闘で広島市教育委員会の後援を取り付け、会場も確保。そして受講者を組織するために二つの駅でのチラシ配布、スローガンも確保。そして受講者を組織するために二つの駅でのチラシ配布、スローガンも確保。そして受講者を組織するために二つの駅でのチラシ配布、スローガンも確保。

守屋さん
今度は六甲山の「登山詳細図」シリーズ

登山前会長の守屋益男さんと息子の守屋二郎さんが作成している人気の「登山詳細図」シリーズ



環境省は、2014年6月5日、JR東海が建設予定の中央新幹線(東京都・名古屋間)に係る環境影響評価書に対する石原伸晃環境大臣意見を国土交通大臣に提出した。

環境大臣意見
リニア新幹線計画に対する
環境大臣意見書(2014年)

環境省は、2014年6月5日、JR東海が建設予定の中央新幹線(東京都・名古屋間)に係る環境影響評価書に対する石原伸晃環境大臣意見を国土交通大臣に提出した。

環境省は、2014年6月5日、JR東海が建設予定の中央新幹線(東京都・名古屋間)に係る環境影響評価書に対する石原伸晃環境大臣意見を国土交通大臣に提出した。

山岳救助の防災ヘリ
埼玉県で1月から有料に

登山中に事故を起こし、救助をお願いする時に出勤してくるのが防災ヘリコプターですが、埼玉県では2018年1月1日から一部有料化されることになりました。これは、2017年3月県議会会で自民/公明



女性委員会結成から40年
パンフレットをお届けしました

登山全国連盟に女性委員会に各地方連盟に、男性委員会が1977年に結成されてから40年を記念して、その活動を広く知ってもらうため、女性委員会がパンフレット「ようこそ女性委員会へ」を作成しました。詳しくは埼玉県警察ホー



「山の歌をうたう会」を毎月開催

歌詞に込められた
山への深い想いと憧れ

甲山勤労者山岳会 天野憲一郎



「ろうさんニュース」前回号で甲山会員が作った山の歌を紹介したところ、兵庫県の甲山（かぶとやま）勤労者山岳会の天野憲一郎さんから「毎月、定例会とは別に、『山の歌をうたう会』を実施している。その案内を会報にも掲載し、楽しく続けている」という連絡が入りました。その様子を投稿していただきました。

2006年の「兵庫県連」創立40周年記念歌集「山とうたごえ」をテキストに歌い続けていると、「山の歌」が。近々を流れる武庫川に思いを寄せる「武庫川」（作曲：福田和郎 作詞：南垣秀樹）は私たちの「会」が歌い続け、作曲者に感謝された曲でもあります。会の出発当初から感じていた「山の歌は、まさに山の文化の構成部分」であると同時に、この文化が消滅しつつあるのでは無いことを願います。

山の歌は山の文化だ
歌い継いでいこう

「山の歌をうたう会」が始めるきっかけになったのは、例会の途中で「山の歌」を歌おうとしても、仲間と一緒に歌う経験がなくなっていることが気になってきたからです。考えてみると最近では、ほとんど「山の歌」を歌ったり聞いたりする場面がなくなっていました。当会は以前、「岳人の歌」

新しい労山リーフができました
注文を受けます

外に向けた宣伝にご活用を



労山を外部に宣伝する新リーフレットができました。A4版3つ折りサイズです。注文があり次第、無料で必要枚数を送付します。地方連盟や会の連絡先も記載します。イベントなどで活用し、会員を増やしましょう。ご注文は全国連盟事務局まで。



山の歌やロシア民謡、懐かしのメロディなどを一緒に歌いませんか？
甲山勤労者山岳会・山の歌をうたう会



東京都連盟でも「山のうた集会」
みんなで歌えば
たくさんの笑顔が

東京都連盟は、第3回目ができました。今後の「山のうた集会」を10月16日夜に全国連盟事務所1階で開きました。当日は雨が降る寒い日でしたが、23名が参加。アコイデオンの伴奏で合唱が続き、室内にはほだいで熱気が…。都連盟ニュース第381号から転載します。

中央アジアの国
カザフスタンは
壮大な大地だった
労山が交流訪問隊を派遣



赤茶けた草原の向こうに雪をいただく天山山脈が見える。左から4人目が筆者の堤さん。

労山が加盟するアジア山岳連盟で、各国の山仲間が交流しようと、中央アジアの国カザフスタン山岳連盟から同国の国立公園をめぐるとハイキングの提案がありました。

労山はこれをうけ、国際部を中心に、8月25日～9月1日に青森から高知まで全国各地から参加者20名が集まって訪問隊を編成しました。その一人、東京の「品川山の会」さんかてん」から参加した堤淳子さんの報告です。

4つの国立公園を車で巡る走行距離600kmを超える大旅行だった。遊牧のおじさん、お兄さんは日本人とそっくりな顔立ちで、穏やかで親しみやすい。でも、言葉はカザフ語かロシア語でまったくわからない。宿泊は都市のホテル、山中のゲストハウス、テント、ユルト（遊牧